本文

第3308号

官報 第三千三百八號 明治二十七年七月十日 火曜日 内閣官報局

○勅令

朕軍事上緊急ノ必要ニ因リ購入シタル政府ノ物件ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

明治二十七年七月九日

海軍大臣 伯爵西郷從道
陸軍大臣 伯爵大山巖
大藏大臣 渡邊國武

勅令第九十二號

軍事上緊急ノ必要ニ因リ購入シタル政府ノ物件ヲ貸付ケ又ハ賣渡ス場合ニ於テハ官有財産管理規則第四條第六條及第七條ニ依ラサルコトヲ得

勅令第九十二號參照

勅令第二百七十五號官有財産管理規則(明治二十三年十一月二十五日官報)抄錄

第四條 官有財産賣拂代金ハ其ノ財産引渡ノ際一時ニ納付セシムヘシ

第六條 官有財産ノ貸付料ハ毎年前納セシムヘシ若シ前納スル能ハサルトキハ相當ノ保證ヲ出サシムヘシ

第七條 官有財産ノ修理其ノ他ノ費用ヲ負擔スル方法ハ貸付契約ヲ爲ストキ之ヲ定ムヘシ

貸付財産ノ貸付ハ左ノ期限ヲ超ユルコトヲ得ス

第一 樹木培養ニ供スル土地ハ八十年以内

第二 農工其ノ他ノ營業及住居ニ供スル土地ハ三十年以内

第三 土地森林ノ使用權ハ十五年以内

第四 右ニ掲ケサル物件ハ三年以内

朕陸軍懲罰令中改正追加ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

明治二十七年七月九日

陸軍大臣 伯爵大山巖

勅令第九十三號

陸軍懲罰令中左ノ通改正追加ス

第九條ノ次ニ左ノ二條ヲ加ヘ第十條ヲ第十二條ニ改メ以下逐次繰下ク

第十條 戰時若クハ事變ノ際ニ在テハ第三條ノ諸官ハ處罰中ノ者ニ戴罰ノ儘服務ヲ命スルコトヲ得但此場合ニ於テハ服務中ノ期日ヲ處罰日數ニ通算ス

第十一條 戴罰服務中特ニ功績若クハ勤勞アル者ハ第三條ノ諸官其處罰ヲ免シ若クハ之ヲ輕減スルコトヲ得

○訓令

農商務省訓令第二十四號

警視廳 北海道廳府縣(東京府ヲ除ク)

明治二十五年十月當省訓令第二十八號狩獵規則取扱手續第八條左ノ通改正ス

明治二十七年七月十日 農商務大臣 子爵榎本武揚

第八條 免狀統計表ハ第三號表式ニ據リ調製シ毎年甲種ハ十二月十五日マテ乙種ハ五月十五日マテニ本大臣ニ報告スヘシ

明治何年狩獵甲(乙)種免狀統計表 廳府縣名

第三號	種目	職獵	遊獵	計
免狀受取高				
免狀下附高				

印刷局印刷

表式

免許料	
免狀再渡高	
免狀再渡手數料	
狩獵禁止地名	某・地

農商務省訓令第二十四號參照
農商務省訓令第二十八號狩獵規則取扱手續（明治二十五年十月十二日）抄錄
第八條　免狀統計表ハ第三號表式ニ據リ調製シ毎年七月三十一日限リ本大臣ニ報告スヘシ

第三號表式

廳府縣	何年狩獵統計表	職猟	遊猟	計	總計
免許料	免狀受取高	甲種	甲種	甲種	
		乙種	乙種	乙種	
免狀	同	同	同	同	
	同	同	同	同	
免許料	同	同	同	同	
	同	同	同	同	
族籍	華族	士族	華族	士族	
	平民		平民		
火盜難遠失免狀再渡	甲種	甲種	甲種	甲種	
	乙種	乙種	乙種	乙種	
免狀再渡手數料	同	同	同	同	
	同	同	同	同	
斷裁免狀	同	同	同	同	
	同	同	同	同	
狩獵禁止地名	某地				

○達

宮內省達甲第三號

宮內省東宮職官制中東宮侍從定員三人ヲ五人ニ改ム

明治二十七年七月十日

奉勅　宮內大臣　子爵土方久元

○警視廳東京府及東京市公文

東京府令第五十二號

本年東京府令第五十一號取消ス

明治二十七年七月十日

東京府知事　三浦安

東京府令第五十二號參照
明治二十七年七月東京府令第五十一號ハ小笠原島巡警巡目中ニ「官吏ノ臨檢ヲ待タシテ官林ヲ伐採シ又ハ棕梠葉ヲ採集シタル者」ノ一項追加ノ件ナリ

警視廳告示第三十三號

左記ノ者明治二十五年一月勅令第十一號豫戒令第一條第三號ニ該當スルモノト認メ同年十二月豫戒命令ヲ執行セシ處同令第六條ニ依リ本月七日其命令ヲ解除シタリ

明治二十七年七月十日

警視總監　園田安賢

高知縣　前島浩象
茨城縣　袴塚三喜藏
長野縣　中條安次郎

警視廳告示第三十三號參照
勅令第十一號豫戒令（明治二十五年一月二十八日）抄錄
第一條　警視總監北海道廳長官府縣知事ハ公共ノ安寧秩序ヲ保持スル爲メ左ノ事項ニ該當スル者ト認ムルトキハ豫戒命令ヲ爲スコトヲ得
三、公私ヲ問ハス他人ノ業務行爲ニ干涉シテ其自由ヲ妨害シ又ハ妨害セントシタル者
第六條　豫戒命令ヲ受ケタル者一年以上ヲ經過シ悛改ノ情狀著シキトキハ警視總監北海道廳長官府縣知事ニ於テ其命令ヲ解除スルコトヲ得此場合ニ於テハ同時ニ之ヲ其地方ニ於テ公布ス

東京市告示第四十五號

本年六月東京市告示第四十一號ニ依リ市會議員及區會議員ノ補缺選擧ヲ行ヒシ處其當選人左ノ如シ

明治二十七年七月十日

東京府知事　三浦安

深川區一級選出深川區會議員　名子新七
二級選出同　區會議員　齋藤鐵太郎
三級選出同　區會議員　乙訓寛吉
三級選出赤阪區會議員　渡邊貢次郎
同　青山忠惇
同　久我懋正

○敍任及辭令

○明治二十七年七月七日

任陸軍步兵大尉　陸軍步兵中尉正七位　木村伊助
任陸軍步兵大尉　陸軍步兵中尉從七位　松村安雄
任陸軍步兵中尉　陸軍步兵少尉正八位　中川幸助
任陸軍步兵中尉　陸軍步兵少尉正八位　宮崎憲之
任御料局技師　農科大學助教授正八位　磯山廣居
敍八等賜二級俸　御料局技師　磯山廣居

御料局名古屋支廳在勤ヲ命ス（七日宮內省）

豫備被仰付　陸軍步兵大尉　齋藤正貫

免本職補盛岡大隊區副官　歩兵第五聯隊中隊長陸軍歩兵大尉　小野重勤
補歩兵第十一聯隊中隊長　陸軍歩兵大尉　木村伊助
補歩兵第五聯隊中隊長　陸軍歩兵大尉　松村安雄
免本職補歩兵第四旅團副官　歩兵第五聯隊附陸軍歩兵中尉　山梨半造
（各通）　陸軍歩兵中尉　濱口忠之
賜一等給（以上七月七日陸軍省）　陸軍歩兵中尉　深田輝澄

工科大學助教授　河喜多能達
學術實地指導及應用化學上取調ノ爲京都大阪兵庫岡山ノ二府二縣下ヘ出張ヲ命ス（七月七日帝國大學）

○宮廷錄事

○東宮御參內　皇太子殿下ハ一昨八日午前八時御出門御參內同九時五十分還御アラセラレタリ

○彙報

○官廳事項

○官吏發著

曩ニ大阪ヘ出張ノ北白川宮家令恩地輹ハ本月五日、曩ニ願濟轉地療養トシテ旅行中ノ山尾宮中顧問官ハ同六日歸京セリ

歩兵第七旅團長山根陸軍少將ハ本月一日ヨリ徵募事務執行トシテ管內ヲ巡廻セリ

兵庫和歌山兩縣下ヘ出張ヲ命セラレタル理科大學教授理學博士横山又次郎ハ本月七日出發セリ

曩ニ出京シタル日下福島縣知事ハ本月七日、籠手田新潟縣知事ハ一昨八日、荒川福井縣知事、古澤奈良縣知事、新潟縣技師黑田豐太郎ハ昨九日孰モ出發歸任●新潟縣警部長西田榮太郎ハ本月七日赴任ノ途次出京昨九日出發赴任●島根縣書記官久保村活三ハ一昨八日出發赴任セリ

○內閣書記官室移轉　震災破損ノ箇所修繕中內閣會議日ノ外ハ內閣書記官室ヲ內閣總理大臣官邸附屬舍（永田町二町目十二番地）ニ移シ一昨八日ヨリ同所ニ於テ事務ヲ取扱フ

司法及警察

○辯護士名簿登錄　元判事枥木縣士族加藤秀男ハ本月二日根室地方裁判所檢事局ニ於テ辯護士名簿ニ登錄セリ

○出火　東京府及兵庫富山、大分佐賀ノ四縣ニ於ケル出火左ノ如シ

東京府　本月六日午後十一時二十分北多摩郡中神村五百十四番地ヨリ出火三戶燒失原因過失●同七日午前零時二十分南多摩郡八王子町楢山百五十九番地ヨリ出火全燒六戶半燒二戶原因未詳●一昨八日午後三時二十分南足立郡千住町元千住一町目三十五番地ヨリ出火一戶燒失原因過失ナリ

兵庫縣　去月二十五日及二十六日落雷ノタメ燒失セシ家屋朝來郡一戶永上郡一戶計二戶延燒セシ家屋朝來郡十七戶同電信柱二本同納屋數棟半燒家屋多可郡一戶同物置佐用郡一棟燒失セシ山林加西郡一段歩ナリ

富山縣　本月二日午前一時十分上新川郡濱川町大字高月村百七十六番地ヨリ出火高月尋常小學校一棟延燒原因洋燈ナリ

大分縣　去月二十九日午後二時三十分頃宇佐郡四日市町大字四日市ヨリ出火家屋四十餘戶燒失同五時鎭火セリ

佐賀縣　杵島郡小田村大字上小田ニ於テ去月三十日出火二十五戶燒失武雄警察署小田分署類燒セリ

財政

○會計檢査　會計檢査院ニ於テ去月中各廳出納官吏ニ對シ認可狀ヲ交付セシハ左ノ如シ

	二十三年度 歲入出外現金出納	二十四年度 歲入出外現金出納	二十四年度 出入	二十五年度 歲入出外現金出納	二十五年度 出入	二十六年度 歲入出外現金出納	二十六年度 出入	二十七年度精算決算	各年度未計
內閣									
外務省									
內務省									
大藏省									
陸軍省									
海軍省									
司法省									
農商務省									
遞信省									
北海道廳									
府縣									
合計									

（初期ノ官廳ハ明治四年ノ官制ニ從フ　私立法律學校ハ公立法律學校ニ準ス）

彙報

○金圓下賜　神奈川縣ニ於テハ去月二十九日左ノ者ヘ金圓ヲ下賜セリ

先代亡山口雷輔夙ニ心ヲ農業ニ專ニシ穀類其他ノ種子ヲ精撰シテ之ヲ有志ニ頒チ又肥料施用ノ方法ヲ研究シテ得ル所アリ且ツ共同購買ノ法ヲ設ケテ其價格ノ暴騰ヲ防キ或ハ農談會品評會ヲ興シテ誘導奬勵ニ怠ラス或ハ頗年各地ニ歷遊シテ竄種撰擇ニ力ヲ致ス等實業ニ勵精スル茲ニ三十年間ニ奇特トス仍テ其追賞トシテ金六圓下賜ス　相模國大住郡高部屋村亡山口書輔相續人　山口やす

○陸海軍

○水路告示第六百五十四號

艦船ニ於テ此告示ヲ領受シタルトキハ軍艦職員條例第六十八條ニ基キ其關係ノ圖誌ヲ改正增補セシコトヲ要ス

第一七一五項

海軍海圖第二〇六號第一四三號裏瀉水路誌一卷下六五二頁、六六四頁（二）ニ關係ス

官報 3308 第三

丸州西岸　八代海

（一）瀛々灘戸内暗礁ノ發見

軍艦標識管理所ノ通知ニ據レハ同所附屬汽船明治九ハ明治二十七年六月十七日九州西岸八代海瀛々灘戸内ニ於テ水深二尋半（高潮ノ時）ノ一暗礁ヲ發見セリ其位置左ノ如シ

寺島ノ西端　北三五度西
暗礁概位（北緯三二度一三分四三秒）　南四四度東
暗礁概位（東經一二〇度四分三八秒）　南七八度西

（二）八幡灘戸松崎灣内暗礁ノ發見

又同汽船ハ八幡灘戸松崎灣内ニ於テ該灣ノ北角（カブト鼻）ヨリ北六九度西凡四鏈ノ處ニ於テ低潮ニ水深二尋ノ一暗礁ヲ發見セリ其位置左ノ如シ

暗礁概位（北緯三二度一三分四三秒）
（東經一二〇度四分三八秒）

方位ハ總テ磁針ニ取ル

右告示ス

明治二十七年七月九日　水路部長海軍大佐　肝付兼行

○行軍及演習　第四師團輜重兵第四大隊第二中隊將校以下九十九名馬四十九六頭ハ去月五日兵庫縣川邊郡稻野村ノ内寺本村ニ行軍同日同所ニ宿泊翌六日尼崎町ヲ經テ歸營（兵庫縣）◎第一師團歩兵第十六聯隊第三中隊ハ本月二日新潟縣北蒲原郡中浦村大字乙次字二ツ山ニ於テ實彈射撃演習施行、同第九中隊將校以下百十八名ハ實彈射撃演習ノタメ同四日北蒲原郡大宮村大字宮古水ヘ一泊行軍、同第三中隊ハ同五日同郡中浦村大字吉浦字志村山ニ於テ實彈射撃演習ヲ施行セリ（新潟縣）

○軍艦發著　佛國軍艦「パイヤール」ハ本月二日仁川ニ向ヒ長崎港ヲ拔錨セリ（長崎縣）

○日本赤十字社錄事

青森縣委員部幻燈會　本社青森縣委員部ハ去月九日ヲ以テ青森鹽町中村座ヲ本社青森縣委員部ノ出張所ニ宛テ此ニ赤十字幻燈會ヲ開ケリ入口ニハ其出張所竝ニ幻燈會場ヲ標スルタメ國旗ヲ交叉セリ來會スル者千有餘人青森縣委員副總長脇坂兵太開會ノ主旨ヲ述ヘ委員長横井俊三ノ赤十字社ノ起原歴史及現況ト又氏カ西南ノ役ニ際シ陸軍ノ醫官トシテ負傷者ノ救護ニ從事セシ實歴ヲ陳ヘ以テ大ニ本社ノ必要ニ説及セリ而シテ委員新妻胤孝、本間實等演述中交々幻燈ヲ映出セシニ始終靜肅ニ能ク其主旨ヲ傾聽セリ午後十時ニ至リ閉會ヲ告ク當夜ハ歩兵第四旅團長貞愛親王殿下ノ御臨場ヲ辱クシ本場ニ一段ノ光榮ヲ添ヘタリ但シ當日ハ午後二時ヨリ青森公園ニ於テ歩兵第五聯隊衞生隊ノ擔架衛演習アリ本社ノ員ニハ特ニ參觀ノ便宜ヲ與ヘラレ軍醫正横井俊三氏ハ衞生隊ノ作業ニ就キ懇篤仔細ニ説明セラレタル等ヲ以テ夜間ノ幻燈ト畫夜相關聯シテ其必要ヲ感得シ以テ社旨ノ貫徹普及ニ大ナル效益ヲ與ヘタリキ（宮内省）

○學事

○學術技藝等雜誌　出版法第十條第一項色書ニ依リ出版手續省略願ヲ許可シタル學術技藝統計廣告雜誌ノ題名及編輯者發行者氏名左ノ如シ（内務省）

許可月日	題名	發行度數	編輯者	發行者	地
六、二	同進（月一）		編輯兼發行者		東京
六、二	共和親睦（隔月一）		阪本鎌平	編輯兼發行	東京
六、三	會雜誌		編輯兼發行	榮右馬太郎	兵庫
六、四	珍書百種（月二）		編輯兼發行	宮崎瑞和田	東京
六、六	教理講話輯ヨリ第二（月一）		編輯兼發行	鷲尾郎	東京
六、九	大阪○ちん（月一）		編輯兼發行	市村悅	東京
六、九	別世界（月一）		編輯兼發行	森田愚	大阪
六、九	第十五（月一）さとの		編輯兼發行	中村鄉三郎	栃木
六、九	第十五（月一）ひかり		編輯兼發行	富田良穗	愛知
六、九	字之寶の花（月一）		編輯兼發行	丸弘人	三重
六、二	ポンチ（月一）		編輯兼發行	矢野佑一郎	東京
六、二	日本圖書月評（月一）		編輯兼發行	竹次郎	東京
六、二	費世利合花誌（二月）		編輯兼發行	黑川柳右衛門	東京
六、三	めさまし（月一）		編輯兼發行	田中平義	京都
六、三	鄙の細道第二號（月一）		編輯兼發行	福田澤要藏	新潟
六、三	日本竹第二號（月一）		編輯兼發行	田澄豐之丞	三重
六、三	奄雜誌 以下第二號（月一）		編輯兼發行	牧田富	東京
六、五	日本美術畫報號ヨリ第二（月一）		編輯兼發行	次郎	東京
六、五	夏之部四季竝句集第九回（四年）		編輯兼發行	武多津	池袋
六、六	同意誌第二號ヨリ（隔月）		編輯兼發行	田隆道	東京
六、六	ふみの第二號（年三）		編輯兼發行	石根崎登	岡山
六、六	はやし 以下		編輯兼發行	田根提雪	愛知
六、六	硯友文華（月一）		編輯兼發行	喜武	愛知
六、六	教育報知新聞（四月）		編輯兼發行	井上國太郎	甑島
六、六	神州（月一）		編輯兼發行	直治	茨城
六、六	桜葉佳作第二號（月一）		編輯兼發行	吉田良	長野
六、六	不平（月二）		編輯兼發行	阪眞和	大阪
六、六			編輯兼發行	時藏	京都

專修部卒業生

東京府平民　廣生　フク　群馬縣士族　高澤　孝一　神奈川縣平民　西川　トリ
殿手縣士族　原田　フジ　群馬縣士族　三浦　ミホ　東京府士族　野村　カク

主事上原六四郎報告

本日當校第七回ノ卒業證書授與ノ式ヲ擧クルニ當リ例ニ依リテ先ツ本學年間ニ擧行セル當校事業ノ概略ヲ報告セントス

當校ハ昨明治二十六年六月二十九日勅令第六十二號ノ結果ニ依リテ同年九月十一日ヨリ高等師範學校ノ附屬學校ト爲リテ稍ヽ組織ヲ變セリ然レトモ其事業ハ概ネ從前ト異ナルコトナシ而シテ昨年九月入學ヲ許可セルハ各自ノ志願ニ係ルモノ十五名又各府縣廳若クハ諸學校ノ特選ニ係ル者七名合計二十二名ニシテ當今本科課程其他ノ生徒ヲ合セテ總計七十四名ナリ就中特選生ヲ各府縣ニ要スルノ主意タルヤ目今ハ尚ホ普通學上音樂ノ良教員缺乏スル時ナルニ依リ專常師範學校、中學校ノ卒業生又ハ教育上既ニ經驗アル者ヲ入學セシメテ其闕ヲ補フニ在リ兩三年間ノ經驗ニ依ルニ頗ル喜フヘキ結果アルカ如シ故ニ來九月モ亦例ニ依リテ此種ノ生徒ヲ募集スルコトヽセリ本年ハ師範部生ニ卒業スヘキ者ナクシテ本日卒業證書ヲ受領スヘキ者ハ皆募修部生ニシテ其數六名ナリ内「ピヤノ」專門ノ者女四名「パイオリン」專門ノ者二名内一名男生ナリ豫科卒業生ハ十八人内男子十三名、女五名ナリ

本學年中學科諸規則等ノ變更ハ豫科生入學ノ試業課目ヲ改正シテ稍ヽ其程度ヲ高クセルト新ニ小學唱歌講習科ト云フ一科ヲ設ケタルトニ在リ從來豫科生ノ入學程度ハ高等小學科卒業以上ノ學力アル者トシ其旨トスル所ハ入學試業ヲ容易ニシ成ルヘク耳官指手ノ柔軟ニシテ教化シ易キ弱年者ヲ募集スルニ在リ此事タル今後トテモ音樂ノ熟達ヲ期スルニハ必要ナル事柄ナリト雖モ實際ハ然ルヲ得ス勿論ニシテ入學ス男子ニ於テ殊ニ然リト雖モ入學者ノ學力モ自然ニ入學程度ヨリ高キ現狀ナリ加之一昨年來實施セル學科ノ變更ニ依リテ在學生徒ニ相應ナル學問ノ素地アルヲ要スルノミナラス當校ノ卒業生ハ概ネ諸學校ノ教職ニ從事スルカ故ニ其品位上ヨリ考フルモ獨リ音樂ニ係ル技術ノミナラス少々普通ノ教育アル者タルヘキハ論ヲ俟タサルナリ是レ本學年ニ於テ入學ノ程度ヲ稍ヽ高クセル主旨ニシテ來九月ヨリ此程度ニ依リテ生徒ヲ募集スルコトヽセリ又新ニ小學唱歌講習科ヲ設ケタル所以ノモノハ當校ニ於テ從來實地授業法ノ設ナキニアラサレトモ其結果ニ鑑ミ望ム所アルニ依リ今回該講習科ヲ設ケテ一ニハ最終學年ノ生徒ヲシテ實地ニ授業ヲ擔任セシメ當校教官ノ監督ヲ以テ授業法練習ノ足ラサル所ヲ補ヒ又一ニハ僅々一箇年ノ課程ニ依リテ小學用ノ唱歌、樂器ノ練習及音樂理論ノ一斑ヲ授ケ以テ目今世間ニ不足セル小學校唱歌科ニ適良ナル教員ヲ養成スルニ在リ尤モ小學校トテモ成ルヘク唱歌科專科ノ教員ヲ採用スルヲ望ム雖モ方今ノ事情猶ホ許サヽルヘク且ツ他科ノ教員トモ同シク教育上一般ノ智識アル要スルヲ以テ該科ニ入學スヘキ者ハ既ニ教育上相應ノ資格アル者卽チ教員免許狀ヲ有スル者ニ限レリ是レ亦來九月ヨリ實施スル見込ヲ以テ既ニ其募集ニ著手セリ

以上本學年ニ於ケル當校事業ノ大要ナリ

學校長嘉納治五郎式言

本日ヲトシ本校生徒卒業證書授與ノ式ヲ擧行ス

文部次官閣下及紳士貴女各位ノ賁臨ヲ辱クス本校ノ光榮何ソ之ニ過キン諸子ハ幾多ノ歲月本校ニ在リテ刻苦淬勵能ク生徒タルノ本分ヲ守リ學成リ業終ヘテ本日此光榮ヲ荷フニ至レリ是レ固ヨリ諸子カ平素勤勉等ニ從フト本校教授教師ノ薫陶其宜シキヲ得ルトニ由ルト雖モ抑ヽ亦昭代ノ餘澤ニ出ツルモノナレハ諸子ハ特來努力シテ之カ報效ヲ期セサルヘカラス

夫レ教化ヲ宣ヘ風俗ヲ正スハ經世ノ要道ナリ而シテ風ヲ移シ俗ヲ易フルハ樂ヨリ善キハナシ諸子ハ益々學藝ヲ練磨シ我邦音樂ノ改良進歩ヲ計リ以テ教化ヲ助ケ風俗ヲ正サヽルヘカラス諸子ノ責任亦實ニ此ニ在リ

余ハ此光榮アル式場ニ臨ミ諸子ノ卒業ヲ祝スルト共ニ余カ將來諸子ニ望ム所ヲ述フルコト此ノ如シ

牧野文部次官祝辭

茲ニ卒業證書授與式ヲ擧ル之リ親シク卒業生諸子ニ向ヒテ祝辭ヲ述ヘントス

抑ヽ音樂ハ人ノ性情ニ至大ノ感化ヲ起シ世ノ風敎上ニ非常ノ勢力ヲ及ホスハ已ニ定論ノ存スル所ナリ而シテ今諸子ハ專修部ニ於テ各科專門ノ音樂ヲ修メ之ヲ卒業シタリ諸子其學ヒタル所ヲ利用スルニ力ヲテハ啻ニ之ヲ以テ己ノ性情ヲ養フニ止ラス更ニ進テ旋律ノ改良、新曲ノ製作凡ソ音樂ニ關スル各般ノ進歩ニ盡瘁シ本校專修科設立ノ目的ニ副フヲ勉メハ卽チ國民ノ性情ヲ溫良敦正ニ誘導スルニ於テ其功績尠カラサルモノアラン況ヤ本邦音樂ノ改良スヘキモノ頗ル多ク其前途渺漠タルモノアルニ於テヲヤ諸子之ヲ勉メヨ玆ニ企望ヲ述ヘテ祝辭ニ代フルコト、然リ

卒業生總代麻生フク謝辭

過ぎゆく月日に關守なく咲きちる花よりも榮さ一つさ紅葉の枝に木枯ふき四季をそ〳〵の思のうちに、れもへ〳〵業ゐなの學ナビヤ校ゆ通ひそめ一ゆに一年もまたぎのみたふのこと朝に夕に師の君たちのいやをねもとなる御數にほだされあだ一ひとゆうち忘れ音葉の林文の山あきりとけたゞる爪琴のふちべつたなき姿等ゆゑあるふげべたかー久方の月の桂の玉の枝「ヲルガン」「ピヤノ」「パイオリン」數のをーへに日をおくり早や四年の春をそてゆゞみもあつき夏の最中學の道に因緣ある七ナヽミ月七日てふなふの日に設の席ゑ集ひ給へる諸人の前にてゆゞ擅ーくも卒業證書を賜とりか孫てまた文部のおゞ官ゞ、はぎのつゆのさをほまゆ巻す校長の君、師の君たちよりかたーけなき御言葉をさへ、ゝたさ恥賤の身に著る栲布もとふハ錦の光やそへ侍りぬ、ゆゑま、つたなき吾ゞどもかゝる恩惠の露ゑにはひいで花とやゝさかであるべき、ゆゑ、今よりひとをてはげみうき世の道の高山端山岩根木の根蔭しさゝみ敎をうけーちのらの限り身をつ一ーてむ一え侍らまーと心ふちるひ、ゞをそて一ハ賜そり一ー御言葉のるたーけなさにおたへんためいさゝかおなじ學ひの人ゑにかをまつたなき筆ーてこゝにかくなき

○第一高等中學校卒業證書授與式　第一高等中學校ニ於テ本月七日第八回卒業證書授與式ヲ擧行セリ其次第ヲ擧クレハ當日午前八時三十分職員、卒業生徒及招待諸賓一同式場ニ著席先ツ校長心得久原躬弦式言ヲ述ヘ卒業證書ヲ授與シ了テ演説、次ニ卒業生徒總代柴山五郎作答辭ヲ述ヘ、次ニ牧野文部次官ノ祝詞アリテ同十時式ヲ畢レリ卒業生徒ノ氏名左ノ如シ（文部省）

第一部學科卒業文科志望（三十三人）

赤司	憲一	尾澤茂利二郎	長野縣平民	萱野	盛次郎
筧	克彦	長野縣士族	長野縣平民	丹羽	純三
立	作太郎	東京府士族	山口縣士族	東京府士族	東京府士族
美濃部	達吉	野崎	新太郎	丸山	長渡
井上	竹治	孝義	埼玉縣平民	長野縣士族	長野縣士族
南	新吾	仲治	兵庫縣士族	久田	高三郎
林	幹太郎	盛	兵庫縣平民	愛知縣平民	愛知縣平民
平林	正治	梶原	北海道平民	中野	岩太
山崎	和太郎	岐阜縣平民	福井縣士族	香川縣士族	香川縣士族
猪木	土彦	大石	栃木縣士族	片山	滝太郎
		秋田縣平民	廣島縣士族	太田	豐造
		西川	東京府平民	佐藤	鶴太郎
		村田	東京府士族	岡山縣士族	岡山縣士族
		後彦	岩崎	原	誼太郎
		一男	三雄	柿沼	竹雄
		義夫	岡山縣平民	井上	欽郎
		茂兒	東京府平民		
		秋山	良三郎		

第一部學科卒業文科志望（十五人）

野々村直太郎	鳥取縣士族	内海	弘藏	神奈川縣平民	雨谷	恭太郎
石倉	眞	池田	覓苗	京都府士族	孝一
上田	敏	靜岡縣士族	菊之助	岐阜縣平民	高山	榮一
坂田	厚胤	上原	昌吉	東京府平民	野村	浩一
藤岡	鼎海	東京府士族	青木	埼玉縣平民	伊藤	正弘
		福井縣平民	羽島	茨城縣士族	高知縣士族
			又次郎	山形縣士族	
				東京府平民	
				岐阜縣平民	
				兵庫縣平民	中川	孝太郎
				京都府士族	

第一部學科卒業獨法科志望（三人）

杉本	眞三郎	新潟縣平民	飯尾 元四郎

第二部學科卒業工科志望（四十五人）

吉町太郎　青森縣士族　大塚隆吉
島崎直也　靜岡縣平民　熊倉逢
佐伯軍次　熊本縣士族　飯島榮男
俵國一　島根縣平民　平野蕚
池田國男　東京府士族　市川紀元二
浦太郎　愛知縣士族　山口金太郎
日比喜三太　福井縣士族　星野一郎
大築千里　東京府平民　降矢芳郎
加茂佐久馬　靜岡縣平民　萩尾傳
樋口脩吉　東京府士族　時治
恩田靜雄　大分縣士族　山中新太郎
原喜一郎　東京府士族　川井平太郎
業岡甲一　岡山縣士族　酒井佐雄
大河內正之助　東京府士族　鵜卷勇
細川清　富山縣平民　川合得二

第二部學科卒業理科志望（十六人）

川北清　三重縣士族　福井松雄
伊藤康太郎　群馬縣平民　木戸忠太郎
永井一雄　東京府平民　松本井上
齋藤讓　東京府士族　圓治
田中三四郎　東京府平民　吉原重康
本多光太郎　東京府平民　常誠　神奈川縣平民
伊木愛知縣士族　鹿兒島縣士族

第二部學科卒業醫科志望（二十八人）

岡田榮吉　東京府平民　阿久津三郎　東京府士族　岐阜縣士族
宮本濟　東京府士族　田村化三郎　宮崎縣士族　小川量平
島柳二　栃木縣平民　伊藤恭三　東京府士族　惣之助　神奈川縣士族
柴山五郎作　東京府士族　岡谷長三郎　秋田縣平民　新之助　東京府平民
中金一　宮城縣平民　牧田敬義　東京府士族　佐々木金二郎　村瀨英一　福島縣平民
村山知二郎　岐阜縣士族　柳橋文之助　茨城縣平民　山口孝吉　東京府士族
安達茂一　福井縣平民　前野昌太郎　秋田縣平民　法元盛良　鹿兒島縣士族
岩田黑田　滋賀縣平民　中原德太郎　滋賀縣平民　綾野利彥　山口縣士族
北川松之助　滋賀縣平民　中野彌三郎　兵庫縣平民　藤野勉　東京府士族
丈作　群馬縣平民　今村佐藤　福島縣士族　小西正二　岡山縣平民
三好春三郎　香川縣平民　浦田周次郎　三重縣士族
仙田乾三郎　鹿兒島縣士族　仁三次　鹿兒島縣士族
上田太吉　福井縣士族　盛田源五郎　福井縣士族
石原初次郎　東京府士族　牡吉　德島縣士族
大渡忠太郎　佐賀縣士族　高田生駒勇　東京府士族
藤農之　岡山縣平民

○東京郵便電信學校卒業證書授與式　東京郵便電信學校ニ於テ本月七日第三回卒業證書授與式ヲ舉行セリ其次第ハ午前九時五十分本校教職員及生徒一同同十時來賓其他一同孰モ著席黑田遞信大臣、鈴木遞信次官臨場幹事田中貞吉學事上諸種ノ報告ヲ爲シ學校長草間時福ハ卒業生ニ順次證書ヲ授與シ次官ハ優等生ニ賞品ヲ與ヘ終テ學校長告辭ヲ述ヘ次テ大臣ノ祝辭アリ甲科卒業生總代猪越倉吉、乙科卒業生總代三宅丈夫答辭ヲ述ヘ同十一時十分式全ク了レリ

遞信大臣ノ祝辭及卒業生ノ氏名ハ左ノ如シ（遞信省）

黑田遞信大臣祝辭

茲ニ東京郵便電信學校第三回卒業證書授與式ニ臨ミ校員諸君ノ誘掖ノ勞ヲ謝シ卒業生徒諸子ノ發奮ノ效ヲ祝ス且ツ諸子カ既ニ修ヲ得タル所ノ學術ヲ以テ前途就ル所ノ實務ニ應用スルニ當リテ愼重補勵能ク其職任ヲ全クセンコトヲ望ム

卒業生氏名

甲科

鈴木庫太郎　廣島縣　鈴木龍太郎　和歌山縣
猪越倉吉　福島縣　月澤虔　奈良縣
中村稻造　島根縣　橘川克彥　岩崎吉郎
秋山啓之　長野縣　藤藏融　愛媛縣
羽方信龜　高知縣　鈴木金之助　福岡縣
近藤金房　東京府　內田東爾　茨城縣
水野比呂文　愛知縣

乙科

三宅丈夫　山口縣　前田汲三　東京府　山本良祐　東京府
中山一郎　北海道　西田仙三郎　兵庫縣　井上郁平　和歌山縣　村上保吉　富山縣
稻塚英太郎　北海道　市來彥吉　兵庫縣　塚山信三　栃木縣　岩崎吉郎　東京府
渡邊信一郎　新潟縣　園田勉次郎　兵庫縣　脇三雄　山口縣　蒲原宇三郎　高知縣
鈴木真一郎　山形縣　兵庫縣　高知縣　大庭傳一郎　靜岡縣　工藤信次　長野縣
北住熊次郎　東京府　行宗敬長　新潟縣　中野宗一　福村周　內藤鑑藏　兵庫縣
山內藤逸彥　東京府　田島賢次　東京府　松尾利三郎　栃木縣　佐賀縣
鈴木友一　和歌山縣　古澤貞　兵庫縣　井上郁平　東京府　三重縣　東京府
綾井總次郎　東京府　白居良湖一　三重縣　山口縣
中內甲一　岡山縣　隨口小島三
中內強鹿　高知縣　佐賀縣
越田伯彥　東京府　東京府
岡村獅子雄　山口縣　鈴木金之助
越岡岩吉　東京府　內田東爾
田中莊治　千葉縣　茨城縣
新潟縣　愛知縣

○小學校教員普通免許狀授與　文部省ニ於テ明治二十四年文部省令第十九號小學校教員檢定等ニ關スル規則第二十一條ニ依リ本年四月ヨリ六月マテニ小學校教員普通免許狀本科正教員ニヲ授與セル者左ノ如シ（文部省）

宮城縣平民	小黑伯藏	山形縣士族	和田正一
宮城縣士族	歌川源太郎	山形縣士族	石川縣平民
宮城縣士族	濱貞	山形縣士族	小島眞造
宮城縣士族	島伺	三重縣平民	三重縣平民
宮城縣士族	安利	三重縣平民	櫛田祐三
大分縣士族	助治	三重縣平民	高知縣士族
山形縣士族	向山政直	三重縣平民	福岡縣士族
山形縣士族	信立	三重縣平民	長崎縣士族
山形縣士族	惣助	三重縣士族	長崎縣士族
山形縣士族	中野豐政	三重縣士族	長崎縣士族
山形縣士族	駒符重吉	三重縣士族	長崎縣士族
山形縣士族	齊藤鉉藏	三重縣平民	長崎縣平民
山形縣士族	塚本正常	三重縣士族	長崎縣士族
山形縣士族	河上和緝	三重縣士族	長崎縣士族
山形縣士族	藤山豐	三重縣平民	長崎縣士族
山形縣士族	小室由成	三重縣士族	長崎縣士族
山形縣平民	小泉政勝	三重縣士族	長崎縣士族
山形縣士族	富澤萬次郎	三重縣士族	長崎縣平民
山形縣士族	富永周太	三重縣士族	佐賀縣平民
山形縣士族	神谷春治	山形縣士族	長崎縣士族
		山形縣士族	阿比留淳藏

福岡縣、縣下筑後地方及筑前西部地方ニ於テハ入梅後晴天連旬今日ニ至ルモ降雨稀ニシテ用水ノ涸渴甚シク夫レカタメ未ダ稻苗ノ移植ヲ終ラサルモノ少カラス就中三池地方ノ如キハ一層ノ渴水ニシテ其移植セシモノ僅ニ總段別ノ二三歩ニ過キサルヲ以テ農家一般非常ノ困難ヲ極ムル狀況ナリ（福岡縣）

○蠶種貯藏成蹟　埼玉縣兒玉郡本庄町ニ設置セル日本蠶種貯藏株式會社ニ於テ昨年製造ニ係ル蠶種ノ貯藏依托ヲ受ケタルモノ五千六百六枚ニシテ此依托人員五百人ナリ而シテ本年春蠶貯藏卵紙ノ成蹟ハ七分附蠶種一枚ヨリ收獲シタル所ノ成繭十二貫九百匁ニ及ヒシヲ普通保管ノ蠶種ニ比スレハ一枚ニ附キ繭五貫匁ノ增收ニシテ又其蠶兒モ成育佳良繭質優等ナリ（埼玉縣）

○二十六年中繭產額　山梨縣ニ於ケル昨二十六年中繭ノ產額ハ總計五万六千五百五十二石ニシテ內春蠶繭ニテ二千八百三十八石、夏蠶繭ニテ四十七石ヲ增加セリ又秋蠶繭ハ一万四千百二十二石ニシテ前年ニ比シ二千四百石ヲ增加セリ（山梨縣）

○二十六年末牛馬數　山梨縣ニ於ケル昨二十六年末調査ノ牛數總計千十六頭內內國種七百十二頭、外國種四十五頭、雜種二百五十九頭ニシテ乳用ニ供スルモノ四十頭ナリ又馬數ハ二万五百九十五頭ニシテ內國種一万九千九百十一頭、雜種六百八十四頭ナリ之ヲ前年ニ比スレハ牛六十四頭、馬百六十八頭ヲ增加セリ（山梨縣）

○金貨及銀相場　本月二日ヨリ同七日ニ至ル一週間金貨及銀相場竝ニ前週平均比較高低ハ左ノ如シ（金貨ハ日本銀行銀ハ橫濱正金銀行報告ニ據ル）

日別	金貨（百圓ニ附キ貨）	日別	金貨（百圓ニ附キ貨）	銀（百圓ニ附キ貨）
	円		円	円
二日	一九〇〇〇〇（午前） 九六四八二（午後）	六日	一九〇〇〇〇（午前） 九六二四一（午後）	九六二〇〇
三日	一九〇〇〇〇（午前） 九六四八二（午後）	七日	一九〇四〇〇〇（午前） 九六〇六七（午後）	九六三六二
四日	一九〇〇〇〇（午前） 九六四八二（午後）	平均	一九〇〇〇〇（午前） 〇〇一〇〇（前週平均比較高低）	九六三六二（午後）
五日	一九〇〇〇〇（午前） 九六四八二（午後）			

○神戸米外五品取引所商況　神戸米外五品取引所ノ報告ニ係ル本年五月中同所商況ノ要領ハ左ノ如シ（農商務省）

定期米月初五月限最高七圓九十三錢五厘、六月限八圓十錢五厘、七月限八圓三十錢ノ高直ニ發會セシカ何分前月ヨリ外國輸入米荷高ノ折柄ナレハ賣買雙方氣迷ノ模樣ナリ二日ハ八十八夜ナレトモ至極好天氣ナルヲ以テ蚕作中分ナク從テ弱氣筋ノ賣急キ現レシヨリ一時ニ下落ノ一方ニ傾キタリ然ルニ強氣筋ハ成行ニ任セ續々買煽リ又利喰待ノ賣物モ相應ニ顯レ雙方小競合ノ姿ニテ三日ニハ五月限最低七圓九十六錢三十一厘ニ八六月限八圓二十八錢五厘、七月限八圓四十三錢ニ鎬會セリ而シテ五月限受渡高ハ片方五千四百石其價格一石ニ附キ八圓二十二錢ナリ又集散高ハ綿越高及輸入高合計二十六万千三十石、輸出高十六万九千百三十石差引現在米九万千九百石ナリ定期株式取引ノ種類ハ山陽及關西鐵道株ノ二種ニシテ時々小高下アリシモ賣買ノ手出稀ニシテ薄取引ノ傾從過セリ受渡高ハ片方山陽鐵道株ノ二十株此價格一株ニ附キ三十二圓ナリ本月中米ノ賣買高ハ五月限一万五千二百石此金十二万二千四十二圓、六月限一万八千三百五十石此金十四万八千二百八十圓、七月限十八万八千二百石此金百五十七万三千三百八十四圓五十錢、合計二十二万千七百五十石此金百八十四万二千七百六圓五十錢ニシテ公定相場平均五月限最高八圓三十九錢最低七圓六十九錢平均八圓三十五錢七厘、七月限最高八圓五十錢最低七圓八十九錢平均八圓二十一錢七厘、七月限最高八圓七十五錢五厘最低七圓九十五錢平均八圓三十五錢七厘

○產業

○旱魃概況　宮城、福岡二縣ニ於ケル旱魃概況左ノ如シ

宮城縣　宮城郡高砂村大字福室中野蒲生及多賀城村東南部ノ耕地凡ソ五百町歩ハ旱天ノタメ用水缺乏シ今ニ揷秧スル能ハサルヲ以テ醫官帮吏等出張ノ上丸太濱濱井用水ヲ去月十日ヨリ五日間灌漑セシモ數十町歩ニ過キス其他松島七北田原町七ケ濱ノ諸村ニ於テモ同樣揷秧シ得サルモノ數十町歩アリ（宮城縣）

平均八圓五十九錢、六月限最高八圓五十錢最低七圓八十九錢八厘平均八圓二十一錢七厘、七月限最高八圓七十五錢五厘最低七圓九十五錢平均八圓三十五錢七厘

鐵道株賣買高ハ山陽鐵株六月限十三株此金四百二十八圓四十九錢、七月限三十株此金九百九十二圓二十二錢合計四十三株此金千四百二十圓六十九錢ニシテ公定相場平均六月限最高三十三圓七十錢最低三十二圓八十錢七厘、七月限最高三十三圓三十錢ニシテ公定相場平均六月限最高二十八圓最低二十七圓四十錢平均二十七圓七十錢ナリ

○仙臺米穀取引所商況　仙臺米穀取引所ノ報告ニ係ル本年五月中同所商況ノ要領ハ左ノ如シ（去月六日本欄內產業ノ部參看）

五月中當取引所ニ於ケル定期賣買米ノ商況ハ五月期最高八圓二十六錢最低八圓五錢ニシテ其出來高三期合計九万百石ナリ相場ノ趨勢ハ五日マテハ漸次下落セシカ七日ヨリ次第ニ昇騰シ二十三日ニ至リ六月期八圓八十錢七月期九圓三十五錢ノ高直ヲ見ル二至レリ是レ昨年來作ノ減收ト現在ノ需用ハ例年ヨリ多額ナルトニ主因スルモノナルヘシト雖モ米ノ產地ヲ以テ全國ニ諸稱スル仙臺ニ於テ斯ク暴騰ヲ見ルハ必ス當ノ相場ニアラサルモノト認メ直ニ賣買ヲ停止シ以テ本月ヲ經過セリ又米穀集散高ハ各地ヨリ輸入米九千百九十九石右東京ヘ輸出米千二十石ナリ此ノ如ク輸入多ク輸出ノ至テ少カリシハ當地ノ米價格外ニ騰貴シタル因レリ

本月中ノ定期賣買高ハ五月限三千六百三十石此金二万八千八百七十七錢、六月限三万千二百三十石此金二十六万四千百五十九圓六十錢七月限五万五千五百九十石此金四十八万千四十一圓四十錢、合計九万四百五十石此金七十七万四千七十八圓七十錢ナリ而シテ公定相場一箇月ノ平均直段ハ五月限最高八圓二十六錢最低七十七錢平均八圓一錢二厘、六月限最高八圓八十錢最低八圓一錢平均八圓三十六錢二厘、七月限最高九圓三十五錢最低八圓五錢平均八圓五十七錢九厘ナリ

○上野米穀取引所商況　上野米穀取引所ノ報告ニ係ル本年五月中同所商況ノ要領ハ左ノ如シ（農商務省）

當所ハ本年五月二日ヲ以テ開場シ當日初立會七月限八圓五十錢ニ生レ翌三日八圓二十九錢五厘マテ押込ミタルモ復タ八圓四十一錢五厘ニ買進ミ昂低區々ナリシカ結果下向ト爲リ五日ニ至リ八圓十錢卽チ本月中ノ最低値ニ下落セリ而シテ七日ハ各地高直ノ來電ニ接シ續々買煽リタルタメ俄然八圓二十六錢ニ飛騰シ爾來上進ノ一方ニ傾キ二十二日八圓六十一錢五厘ノ高直ヲ顯セリ其後強弱互角ノ取引ヲ爲シタレハ從テ價額ニ著シキ變動ナク遂次小民リノ景氣ト爲リ三十一日八圓五十一錢ヲ納會セリ又本月中直取引延取引ノ賣買ナク定期取引ニ在リテモ當期ハ單ニ一回五十石ノ取組アリシノミニテ餘ハ皆先物ニシテ且ツ市街村落何モ製茶養蠶ノ季節ナレハ客筋少ク新規賣買僅ニ五万二千三百九十石ニ過キス米穀集散ノ概況ハ前月ヨリノ越高三万八千五百二十俵、輸入米六千三百八十俵、輸出米八千六百四十俵、市中消費米二千百七十五俵、月末現在米三万四千八百五十石ナリ又定期賣買高ハ五月限百石此金八百二十二圓、七月限四万九千九百十石此金四十二万二百二十六圓六十錢、合計五万十石此金四十二万二千四十八圓六十錢ニシテ公定相場一箇月ノ平均直段ハ五月限最高最低平均トモ八圓十四錢七月限最高八圓六十二錢五厘最低八圓十錢平均八圓四十二錢三厘ナリ

○尾道米穀取引所商況　尾道米穀取引所ノ報告ニ係ル本年五月中同所商況ノ要領ハ左ノ如シ（去月六日本欄內產業ノ部參看）

五月中ノ商況ハ定期米五月限八圓二十八錢、六月限八圓十六錢五厘、七月限八圓三十一錢ニ發會漸次下落シ七日ニ至リ七月限七圓六十一錢ノ低直ヲ現セシカ前月下旬已來輸入米少ク從テ現在米減少將氣筋モ直頃一層ノ低降ヲ見込ミ銀不賣進ム能ハスシテ取組手扣ノ模樣ナレハ強氣ハ買立稍ヽ小戾リノ折柄諸方ノ高値ニ接シ市場頃ニ活氣ヲ呈シ價格同復二十四日ニ至リテハ八圓二錢ニ飛騰シ爾來上進ノ一方ニ傾キ二十二日八圓六十一錢五厘ノ高直ヲ顯セリ其後強弱互角ノ取引ヲ爲シタレハ從テ價額ニ著シキ變動ナク遂次小民リノ景氣ト爲リ三十一日八圓五十一錢ヲ納會セリ又本月中直取引延取引ノ賣買ナク定期取引ニ在リテモ當期ハ單ニ一回五十石ノ取組アリシノミニテ餘ハ皆先物ニシテ且ツ市街村落何モ製茶養蠶ノ季節ナレハ客筋少ク新規賣買僅ニ五万二千三百九十石ニ過キス米穀集散ノ概況ハ前月ヨリノ越高三万八千五百二十俵、輸入米六千三百八十俵、輸出米八千六百四十俵、市中消費米二千百七十五俵、月末現在米三万四千八百五十石ナリ又定期賣買高ハ五月限百石此金八百二十二圓、七月限四万九千九百十石此金四十二万二百二十六圓六十錢、合計五万十石此金四十二万二千四十八圓六十錢ニシテ公定相場一箇月ノ平均直段ハ五月限最高最低平均トモ八圓十四錢七月限最高八圓六十二錢五厘最低八圓十錢平均八圓四十二錢三厘ナリ

一圓九十五錢、合計三十二万七千三百石此金二百六十六万四千八百五十圓三十二錢五厘ニシテ公定相場一箇月ノ平均直段八五月限最高八圓三十錢最低八圓五錢平均八圓二十錢四厘、六月限最高八圓十九錢最低七圓八十五錢平均八圓九錢一厘七月限最高八圓四十錢最低七圓六十一錢平均八圓十五錢五厘ナリ

○特許意匠登録年限滿期 明治二十二年六月一日ヨリ本年六月三十日マテニ特許及意匠登録證ヲ下付シ同日マテニ該證年限ノ滿了ニ屬シタルモノ左ノ如シ（農商務省）

特許

特許番號	發明者稱	特許年限	管轄廳	特許證主
六八四	發授用大算盤	五	島根縣	潮與兵衛
六八八	綴込紐	五	群馬縣	永瀬喜文治
六九〇	鎖絲節放器	五	神奈川縣	園中文助

意匠

登録番號	意匠名稱	登録年限	管轄廳	登録意匠主
四	彫刻圖樣	五	兵庫縣	岩本玄三
一九五	織物模樣	三	栃木縣	山口重助

○通運

○汽船明治丸出帆 航路標識管理所附屬汽船明治丸ハ紀伊國日ノ岬燈臺新設資材ヲ搭載シ本月七日午後六時同所ニ向ケ横濱ヲ出帆セリ（遞信省）

○衛生

○傳染病患者 東京、京都ノ二府及長崎、長野、宮城、嚴手、山口、廣岡、宮崎ノ七縣ニ於ケル傳染病患者左ノ如シ

東京府 本月七日届出ノ赤痢患者赤阪區女一人、四谷區男一人、計二人」腸窒扶私患者芝區男一人、荏原郡女一人、南足立郡男一人、計三人、痘瘡患者荏原郡男一人、合計六人（醫務局）

京都府 去月二十五日ヨリ本月一日ニ至ル一週間ニ届出ノ腸窒扶私患者十三人死亡四人」赤痢患者六人死亡二人、實布的里亞患者六人死亡六人（京都府）

長崎縣 去月二十五日ヨリ本月一日ニ至ル一週間ニ届出ノ痘瘡患者四十三人死亡十四人」實布的里亞患者死亡一人」腸窒扶私患者八人死亡二人」赤痢患者一人死亡一人（長崎縣）

長野縣 去月十一日ヨリ同十七日ニ至ル一週間ニ届出ノ天然痘患者十九人死亡二人」腸窒扶私患者三十三人死亡五人」實布的里亞患者一人死亡一人（長野縣）

宮城縣 去月二十一日ヨリ同三十日ニ至ル九日間ニ届出ノ腸窒扶私患者十五人死亡五人」實布的里亞患者四人死亡二人（宮城縣）

嚴手縣 去月二十四日ヨリ同三十日ニ至ル一週間ニ届出ノ腸窒扶私患者三十一人死亡二人」實布的里亞患者一人（嚴手縣）

山口縣 去月二十一日ヨリ本月四日ニ至ル二週間ニ届出ノ赤痢患者二十人死亡三人（山口縣）

福岡縣 去月二十四日ヨリ同三十日ニ至ル一週間ニ届出ノ腸窒扶私患者四十二人死亡五人」實布的里亞患者二人（赤痢患者二百五十八死亡三十二人）痘瘡患者三人死亡二人（福岡縣）

宮崎縣 去月二十四日ヨリ同三十日ニ至ル一週間ニ届出ノ赤痢患者百八人死亡十四人（宮崎縣）

○在香港傳染病調査員病狀續報 在香港傳染病調査員中央衛生會委員醫科大學教授醫學博士青山胤通等ノ病狀ニ關シ內務技師醫學博士北里柴三郎ヨリ香港發ノ電報ハ左ノ如シ（衛生ノ部參看）

昨九日本欄內（內務省）

青山色々ノ繼發症ヲ起シ甚タ氣遣ハシ石神ハ快復ニ赴ク 一昨八日午前七時五十二分發

青山ハ少シク宜シ木下明後日歸朝ス 昨九日午前十一時四十四分發

○雜事

○淺間山降灰 本月二日午後四時頃淺間山麓長野縣北佐久郡小沼村及御代田村地方ニ降灰凡ソ一時間ニシテ歇ム當日ハ曇天ニシテ該山半腹マテハ陰雲ニ蔽ハレ爲ニ其狀ヲ詳ニスル能ハサリシモ思フニ多量ノ噴烟アリタルナラン其降灰最中ハ恰モ驟雨ノ如キ狀ヲ呈シタリト云フ（長野縣）

○出水被害 兵庫縣佐用郡ニ於ケル去月二十五日ヨリ翌二十六日ニ亘ル出水被害ノ景況ハ家屋潰倒一戸、破損四戸、床下浸水百三十二戸、堤坊破損百七十四箇所延長千二百十五間、道路破損八十箇所延長三千七百三十一間、用惡水路破損三十三箇所延長五百十三間、并堰流損六十一箇所延長百七十九間、溜池破損一箇所、山崩二十一箇所延長二百四十五間、岸崩三百九十九箇所延長五百九十四間、荒蕪地田一町六段二十九歩、畑六段二十六歩、作物皆無地田四十三町九畝二十六歩、畑一町五段六畝四歩ナリ（兵庫縣）

○公使館及領事館報告

○紐育生絲商況 自五月二十六日至六月一日一週間 紐育ニ於ケル生絲商況ニ附キ同地駐在帝國一等領事橋口直右衛門ヨリ去月十三日附ヲ以テ左ノ如ク報告アリ 去月二十九日本欄參看（外務省）

本週間當市絲況ハ取引依然少額ニシテ價格ハ殆ト呼値ニ止リ且ツ秋季向ノ注文比較的ニ少量ナルヨリ織屋ノ原料ヲ需要スルコト左程多カラサレハ以テ市場ノ起色ヲ生スルニ足ラサリキ

亞細亞市場ニ於テハ舊生絲季節ハ實際上此ニ終ヲ告ケテ將ニ新收穫ヲ以テ新季節ヲ開カントス蓋シ東洋本年ノ收繭模樣ニ就キテハ是マテ餘リ報道ニ接セサリシカ別ニ損害ヲ蒙リタルコトノ通知モアラサレハ先ツ概シテ良好ノ方ナルヘキカ如シ

又歐洲市場ハ一般ニ少シク活氣ヲ有シ殊ニミラン ニ於テハ歐洲向ノ需要稍〻良好ト爲レリ近頃伊太利ノ氣候ハ新收穫ニ取リ都合宜シカラサリシモ實際ニ損害ヲ生スル程ニ至ラサリシカ新繭ノ相場ニハ少シク影響ヲ及シテ稍〻手堅クナリ而シテ同時ニ生絲ノ相場ハ前週ヨリ「二リラ」方上騰セリト云フ

米國絹業協會ノ報告ニ據レハ本週間當紐育港ニ輸入シタル絲類ハ生絲百七十九梱及紡織絲三十四梱ナリ

本週間當市ニ於ケル各國生絲ノ相場左ノ如シ

伊太利絲（三十目拂）

特別「クラシカル」	三・七〇―四・〇〇
「クラシカル」	三・六〇―三・七〇

日本絲（六箇月拂）

機械最上一番	最上一番
同 一番牛	一番
繰返一番	繰返二番
同 一番牛	掛目一番
同 二番	同 二番

支那絲（六箇月拂）

機械上等	三・一五
同 並	二・九〇
繰返一番	二・四〇
廣東絲（六箇月拂）	
機械最上及一番	二・六〇―二・八七半
繰返一番	二・四五
撚絲（四箇月拂）	
伊太利縱絲	四・六〇
日本縱絲	四・四〇
日本機械横絲	三・九〇

○釜山港必要品在高及相場 朝鮮國釜山港ニ於ケル必用品及相場ノ件ニ附キ同地駐在帝國總領事館事務代理領事官補永瀧久吉ヨリ去月二十八日附ヲ以テ左ノ如ク報告アリ（外務省）

六月二十六日釜山港居留地在荷高

品名	數量
朝鮮米（精白）	三四九・二石
同全羅道米（中白）	一、七五五・七五
計	二、一四五・〇〇
仁川問（麗樂）	一〇〇・〇〇
漕米（麗樂）	三、一二一・〇〇
同（中白）	三、二二一・〇〇
計	三、三二二・〇〇

本月二十六日當港米、麥、食鹽、薪、木炭及醬油相場左ノ如シ

白米一石	極上	一箇月
	中	八圓
	下	七圓六十五錢
一麥		六圓八十錢
一食鹽	同	三圓
	同	六十四錢

品名	數量
全羅道仁川迎米（玄米）	一、一九五・石六四
同 迎合	一、九五・六四
計	一、一八三・一一
支那米（白）	四、三〇〇〇
同（玄米）	四、九二二・一一
計	一二、六〇〇
支那餅米（白）	一八九〇〇
同（玄米）	同
同本炭	同

一薪	一束（乃至七貫）	十三錢
一木炭	一俵	二十三錢
一醬	平均相場十五割四分三厘六毛	
一醬	但シ醬錢在高凡ソ二万三千貫文	

○外報

佛蘭西

○佛國領地ノ邊境防禦 阿非利加ニ於ケル佛國領地ノ邊境防禦兵ヲ備ヘンカタメ百八十万法ノ支出ヲ要求スルコトニ關スル政府提出議案ハ本日六月九日代議院ニ於テ三十七票ニ對スル四百三十八票ノ大多數ヲ以テ可決セラレタリ 六月九日電報 里發（去月十六日紐育スターツ、ツアイツング）

○列國應用化學會議 本年ノアンヴェール世界博覽會ヲ好機トシ來ル八月四日ヨリ八日間ブリユッセルニ列國應用化學會議ヲ開ク筈ニシテ白耳義農工務大臣ハ之カ名譽議長ト爲ルヘシ同會議ハ之ヲ四部ニ分チ第一砂糖化學部、第二農藝化學部、第三食品即チ衛生化學部、第四生物化學部トス澳國政府ハ內務衛生局參事官一人及農務省ヨリ農業化學專門家一人ヲ派遣シテ同會議ニ參列セシム見込ナリ（本年五月二十一日澳國商業博物館週報）

布哇

○新憲法案ノ歸化條款 布哇政府ノ憲法會議ニ提出シタル新憲法案ノ大要ハ既ニ本月七日ノ本欄內ニ記載セシカ尙ホ去月二日ノ「ゼ、パシフヰック、コユマルシアル、アドヴァルタイザル」附錄ニ據レハ右新憲法案ノ歸化ニ關スル條款ハ左ノ如シ

第十八條 歸化

第一項 外國人ノ歸化ハ全ク高等法院判事ノ管轄ニ屬ス其手續ハ追テ法律ヲ以テ規定スル所ニ依ル

第二項 外國人ハ左ノ條件ニ依リ共和國民タルコトヲ認許ス

一 本人ハ一年以上布哇諸島ニ居住シタル者タルヘシ

二 本人ハ永久共和國民タラント欲スル者タルヘシ

三 本人ハ英語ニテ差支ナク讀ミ書キ及談話ヲ爲シ得ル者タルヘシ

四 本人ハ本憲法ノ何ノ條ノ大意及精神ヲモ自身ノ言語ヲ以テ英語ニテ了解シ得ラルヽタクニ說明シ得ル者タルヘシ

五 本人ハ布哇共和國ト條約上歸化ニ關シ明約アル國ノ人民若クハ臣民タルヘシ

七 本人ハ性質善良ニシテ刑罰ヲ避ケテ來リタル者タラサルヘシ

六 本人ハ正當ナル業務若クハ職務ニ從事シ又ハ其他ノ正當ナル活路ヲ有スル者タルヘシ

八 本人ハ共和國內ニ於テ一切ノ負擔ヲ扣除シ個額二百弗以上ノ財產ヲ其所有權アリテ所有スル者タルヘシ

九 本人ハ本憲法ノ第百條ニ規定シタル宣誓文ニ其本國若クハ是マテ歸化シ居タル國ニ服從スルノ義務ヲ棄却シ布哇共和國ニ服從スル旨ノ宣誓ヲ爲シタル者タルヘシ

十 本人ハ以上ノ要件ヲ記載シタル願書ニ署文ヲ加ヘテ之ヲ高等法院ノ判事ニ差出シ該判事ノ滿足スルマテ之カ證明ヲ爲ス者タルヘシ

備考 第百條ニ規定シタル宣誓文ハ左ノ如シ

余ハ布哇共和國ノ憲法、法律及政府ヲ敬持シ直接ト間接トヲ問ハス布哇諸島ニ君主政體ヲ恢復若クハ設立スルコトヲ奬勵若クハ幇助セサルヘシ右萬能ナル上帝ノ前ニ於テ誓テ宣誓確保ス

○觀象

○全國氣象 七月八日

氣壓	氣溫	風	雨量	天氣
毛ヲ以テ表ハス	攝氏ヲ以テ前ニ水點下ハ百ヲ加フ	一ハ快二ハ和、三ハ疾四ハ強五ハ烈六ハ颶風	毛ヲ以テ表ハス 厘ヲ加ス	晴 快晴 曇 快曇 雨 快雨

許可 33308 本文

七月九日

區外	氣壓	氣溫	風	雨量	天氣
大分	六五〇	三二・〇	南		曇
山口	六五〇	三二・〇	南		曇
鹿兒島	六五〇	三二・〇	南		曇
長崎	六五〇	三二・〇	南		曇
福岡	六五〇	三二・〇	南		曇
大阪	六五〇	三二・〇	南		曇
京都	六五〇	三二・〇	南		曇
名古屋	六五〇	三二・〇	南		曇
福井	六五〇	三二・〇	南		曇
新潟	六五〇	三二・〇	南		曇
佐渡	六五〇	三二・〇	南		曇
長野	六五〇	三二・〇	南		曇
高崎	六五〇	三二・〇	南		曇
宇都宮	六五〇	三二・〇	南		曇
水戸	六五〇	三二・〇	南		曇
千葉	六五〇	三二・〇	南		曇
東京	六五〇	三二・〇	南		曇
横濱	六五〇	三二・〇	南		曇
沼津	六五〇	三二・〇	南		曇
甲府	六五〇	三二・〇	南		曇
岐阜	六五〇	三二・〇	南		曇
名古屋	六五〇	三二・〇	南		曇
福島	六五〇	三二・〇	南		曇
宮城	六五〇	三二・〇	南		曇
秋田	六五〇	三二・〇	南		曇
盛岡	六五〇	三二・〇	南		曇
青森	六五〇	三二・〇	南		曇
函館	六五〇	三二・〇	南		曇
札幌	六五〇	三二・〇	南		曇
網走	六五〇	三二・〇	南		曇
上川	六五〇	三二・〇	南		曇
根室	六五〇	三二・〇	南		曇
釧路	六五〇	三二・〇	南		曇
新潟	六五〇	三二・〇	南		曇
佐渡	六五〇	三二・〇	南		曇
長野	六五〇	三二・〇	南		曇
高崎	六五〇	三二・〇	南		曇
宇都宮	六五〇	三二・〇	南		曇
水戸	六五〇	三二・〇	南		曇
千葉	六五〇	三二・〇	南		曇
東京	六五〇	三二・〇	南		曇
横濱	六五〇	三二・〇	南		曇
沼津	六五〇	三二・〇	南		曇
甲府	六五〇	三二・〇	南		曇
岐阜	六五〇	三二・〇	南		曇
名古屋	六五〇	三二・〇	南		曇
福島	六五〇	三二・〇	南		曇
宮城	六五〇	三二・〇	南		曇
秋田	六五〇	三二・〇	南		曇
盛岡	六五〇	三二・〇	南		曇
青森	六五〇	三二・〇	南		曇
函館	六五〇	三二・〇	南		曇
札幌	六五〇	三二・〇	南		曇
網走	六五〇	三二・〇	南		曇
上川	六五〇	三二・〇	南		曇
根室	六五〇	三二・〇	南		曇
釧路	六五〇	三二・〇	南		曇

○全國氣象摘要　七月七日午後十時　晴雨計ハ概ネ上昇シテ其示度ハ德島ニ於ケル七百五十四粍ヨリ北海道ノ東部ニ於ケル七百五十八及七百五十九粍ノ間ニアリ○西部ハ西ノ風吹キ晴天ナレトモ中部及北部ハ東ノ風吹キ曇天且ツ雨天ナリ○溫度ハ內海ノ東部ニ二十八度、根室ニ十度ナリ ⊕七月八日午前六時　晴雨計ハ北海道ノ南西部ニ稍〻下降シテ其示度ハ根室ニ七百五十八粍、日本海ニ七百五十五粍ヲ示セリ○過半南又ハ東ノ風吹キ西部ハ晴天ナレトモ東部ハ所ニヨリ雨降レリ○多度津ハ溫度二十七度、根室ハ十度ナリ ⊕七月八日午後二時　過半南ノ風吹キ晴天ナレトモ北海道ハ雨天ニシテ函館ニ二十七粍ノ量アリ○氣壓ハ根室ニ於ケル七百五十八粍ヨリ長野近傍ニ於ケル七百五十四粍ノ間ニアリテ溫度ハ西部ノ諸所ニ於ケル三十三度ヨリ根室ニ於ケル十二度ニ及ヘリ

七月八日午後十時　全國過半南ノ風吹キ晴天ナレトモ北海道ハ雨勝ニシテ函館ニ二十三粍ノ量アリ○氣壓ハ東海岸ノ沖合ニ於ケル七百五十八粍ヨリ釜山及淼都ニ於ケル七百五十五粍ノ間ニアリテ溫度ハ多度津ニ於ケル二十九度ヨリ根室ニ於ケル十一度ニ及ヘリ ⊕七月九日午前六時　氣壓ノ變化ハ僅少ニシテ其最高示度(七百五十八粍)ハ南及東海岸ノ一部ニ、最低度(七百五十五粍)ハ日本海ニアリ○全國南ノ風吹キ南部ハ晴天ナレトモ北部ハ曇天且ツ雨勝ニシテ札幌ニ十九粍ノ量アリ○溫度ハ過半上昇シテ西部ノ諸所ニ二十六度、根室ニ十二度ナリ ⊕七月九日午後二時　全國區々ノ風吹キ南部ハ晴天ナレトモ北部ハ曇天且ツ所ニヨリ雨降レリ○最高氣壓(七百五十八粍)ハ九州ノ西部ニ、最低度(七百五十四粍)ハ長野ニアリ○桜山ハ溫度三十四度、根室及網走ハ十六度ヲ示セリ

（中央氣象臺）

○全國天氣豫報　七月十日分　自七月九日午後六時　至七月十日午後六時

（一ヨリ四）南又ハ西ノ風晴レ（五ヽ六）南又ハ西ノ風霽レル（七）區々ノ風霽レル

○東京地方天氣豫報　七月十日分　自七月九日午後六時　至七月十日午後六時

南ノ風、晴レ

○地震報告　岐阜外一箇所ノ地震報告ハ左ノ如シ

岐阜　七月九日　午前零時零一分五十五秒　微地鳴アリ

宮古　同　同　十時二十分五十八秒

（以上三件中央氣象臺）

○土地收用公告

今般左ノ工事ニ要スル土地ハ內閣ニ於テ公共ノ利益ノタメ必要ト認定シタルニ附キ土地收用法ニ依リ之ヲ收用スルコトヲ許ス

起業者　新潟縣

工事ノ種類　假定縣道改築

起業地　新潟縣加茂郡新穗村ヨリ雜太郡新町ニ至ル

但シ收用スヘキ土地ノ細目ハ新潟縣知事ニ於テ公告スヘシ

右公告ス

明治二十七年七月十日　內閣總理大臣　伯爵伊藤博文

○廣告

○稅關監吏補試驗

來ル八月十四日神戶稅關ニ於テ神戶大阪兩稅關監吏補試驗ヲ執行ス志願ノ者ハ左項相心得同月七日限リ同廳ヘ願出ツヘシ

第一　年齡滿二十歲以上三十歲以下ニシテ兵役ニ關係ナキ者

第二　身體健康ニシテ近視眼ニ非サル者

第三　軀幹五尺二寸以上ノ者

第四　本港ニ於テ身元確實ナル保證人アル者

第五　試驗科目

一　讀書　漢字交リ文及漢文講說

二　作文　假名交リ文書簡記事者クハ論說

三　算術　加減乘除分數比例

四　筆寫　楷行兩體

五　外國語　英佛獨ノ內讀說書取會話譯

神戶　大阪　稅關

○檢定教科用圖書

尋常高等小學校算術科教師用　全一冊　定價金五十錢

小學新珠算書　全一冊

明治二十七年一月二十日發行

編輯者　茨城縣士族　村田　忠恕　發行者　東京府東京市神田區錦町三町目八番地東京府平民　八尾　新助

尋常小學校習字科生徒用　全八冊

小學習字帖　定價金三十八錢四厘

明治二十七年七月一日訂正再版發行

編輯者　石川縣士族　倉知　新吾　書者　大阪府平民　村田　浩藏

發行者　石川縣金澤市片町五十六番地ノ二石川縣士族　玉造　宗太

高等小學習字科生徒用　全八冊

明治二十七年六月十日訂正再版發行

著者　兵庫縣士族　高山　竹治郎　書者　大阪府平民　村田　浩藏

發行者　京都府京都市上京區御幸町通姉小路上ル大文字町八番戶京都府平民　藤井　孫兵衛

高等小學習字手本　全八冊

明治二十七年六月二十九日訂正再版發行

著者　京都府京都市上京區御幸町通姉小路上ル大文字町八番戶京都府平民　高山　竹治郎　書者　大阪府平民　村田　浩藏

發行者　京都府京都市上京區御幸町通姉小路上ル大文字町八番戶京都府平民　藤井　孫兵衛

右明治二十七年七月五日檢定

明治二十七年七月

文部省

○郵便物集配休止

本月十一日ヨリ九月十日マテ日中取集ハ「ヘ」「ト」便ノ集配ハ「ホ」「ヘ」便ノ集配ヲ休止ス

明治二十七年七月十日

東京郵便電信局

○購買入札

第一號	七百五十石	近衛師團糧餉部所用	定價金三十八錢
第一精米	六十石	同	同
第二號	五石五斗	同	同
第三號	三十三石三斗	陸軍砲兵射的學校所用同校納	二十圓
一精米	三十一石	要塞砲兵聯部練習所用同所納	十九圓
第四號	五十石	陸軍教導團所用同團各生徒隊分納	三十圓
一精米	十一石	同	七圓
第五號	二石五斗	陸軍士官學校所用同校納	入札保證金四百五十圓
一精米	三石	陸軍幼年學校所用同校納	千百五十石
第六號	五石五斗	同軍樂學舍所用同舍納	三百五十石
一精米	千百五十石	近衛師團糧餉部所用	同
第七號	三百五十石	同	同
一大麥	三百五十石	右ハ近衛師團糧餉部ノ指示スル近衛各隊ヘ分納スルモノトス	七十圓
第八號	三百五十石	陸軍乘馬學校所用同校納	同
一大麥	二百二十六石	陸軍砲兵射的學校所用同校納	四十六圓
第九號	四斗	同	同
一大麥	六百八十石	陸軍教導團所用各生徒隊分納	百三十六圓
第十號			
第十一號			
一大麥			

官報 3/3/0/8

第十二號
一大麥　大麥　内　九百二十二石　同　百八十五圓
八百石
百二十二石
陸軍士官學校所用同校納
陸軍大學校所用同校納
以上入札者ハ滿二箇年以上當該營業ニ從事スル者ニ限ル

右競爭ニ附シ購買ス入札望ノ者ハ本月二十三日ヨリ同二十五日マテノ內午前八時ヨリ十二時マテ(休日ハ除ク)近衞師團糧餉部ヘ出頭シ入札人心得書竝ニ契約書案標本等熟覽ノ上同月二十六日午前十時マテニ入札書同部入札函ヘ投入スヘシ(同時開札)

此契約取結ハ近衞師團監督部長新山春太郎擔任ス

明治二十七年七月十日　近衞師團監督部

第四二號
一夏帽　二千頭
第四三號
一葛城織　六万七千尺

但シ各入札保證金ハ各自見積代價ノ百分ノ五、契約保證金ハ落札代價ノ百分ノ十(錢以下切上ケ圓止トス)

右購買ス望ノ者ハ横須賀衣糧庫ニ出頭契約書案明細書入札心得書及見本等熟覽ノ上本月二十五日午前九時營業證明書入札保證金相添ヘ同庫ニ入札スヘシ同日午前九時二十分同庫ニ於テ開札ス

此契約ハ横須賀鎭守府監督部長岩村兼善擔任ス

明治二十七年七月八日　横須賀鎭守府監督部

一螺旋機械　一臺

右入札保證金ハ各自見積價額百分ノ五以上、契約保證金ハ落札價額ノ百分ノ十トス入札者ハ二年以來該營業ニ從事セル者ニ限ル

右購買ス請負望ノ者ハ當工場ニ就キ圖面及明細書契約書案等熟覽ノ上本月二十三日午後一時限營業證明書及入札保證金ヲ添ヘ當工場ヘ入札スヘシ同一時三十分當場ニ於テ開札ス

此契約ハ兵器工場主管肥後盛艮擔當ス

明治二十七年七月　吳鎭守府兵器工場

○工事請負入札

相模國三浦郡浦賀町鹽屋

一觀音崎燈臺　煉瓦石造一棟

但シ契約保證金ハ落札代金百分ノ十ニ入札者ハ二年以來其職ニ從事セシ者ニ限ル

右修繕請負望ノ者ハ本所ヘ出頭仕樣書圖面入札人心得書及契約書案竝ニ現場熟覽ノ上本月二十七日午前十一時限營業證明書及入札保證金相添ヘ入札書差出スヘシ　但シ開札ハ同日正午時トス

此契約ハ航路標識管理所長佐藤秀顯締結ス

明治二十七年七月七日　横濱市　航路標識管理所

○公示催告

神奈川縣横濱市太田町二町目三十一番地平民織物賣込商雇人　堀田萬次郎　申立人

S五二一三號
一當座小切手　壹葉
但シ額面壹百圓

右明治二十七年七月四日附山ノ井清次郎ヨリ東京第百國立銀行横濱支店ヘ宛テタル小切手ノ所持人ハ明治二十八年一月十日午前九時マテニ權利ヲ屆出テ且ツ小切手ヲ提出スヘシ若シ該期日マテ其屆出ヲ爲サス且ツ之ヲ提出セサルニ於テハ其無效タルコトヲ宣告スヘシ此旨催告ス

明治二十七年七月七日　横濱區裁判所

東京府武藏國東京市麴町區上二番町五十番地
一市街宅地參百九拾八坪八合六勺

右ハ華族從三位公爵鷹司凞通所有ノ分今般世襲財產ト爲シ度旨同人ヨリ願出テタル趣宮內大臣ヨリ達セラレタリ依テ該財產ニ關シ故障アル者ハ明治二十七年八月十一日マテニ當廳內務部第五課ヘ申出ツヘシ

明治二十七年七月五日　東京府廳

香川縣讃岐國多度郡多度津町ノ內一田八段參畝貳拾壹歩同縣同郡豐原村ノ內一田(附墓地)合段別壹町五段六歩同縣三野郡大見村ノ內一畑四町五段貳拾參歩同縣同郡笠田村ノ內一田、畑合段別五畝拾五歩同縣同郡勝間村ノ內一田、畑(附墓地)合段別參町七段九畝拾四歩同縣同郡神田村ノ內一田壹町五段參畝歩合段別拾壹町七段五畝拾貳歩同縣同郡財田村ノ內一田、畑

右ハ華族從四位子爵京極高典所有ノ分今般世襲財產ト爲シ度旨同人ヨリ願出テタル趣宮內大臣ヨリ達タリ依テ該財產ニ關シ故障アル者ハ本年八月九日マテニ當廳ヘ申出ツヘシ　但シ地所番號字等承知セントスル者ハ當廳內務部第一課ヘ申出ツヘシ

明治二十七年七月三日　香川縣廳

一當銀行株式ノ內七拾壹株
一同　五拾五株

右ハ今般世襲財產ト爲シ度旨願出候趣宮內大臣ヨリ被達候條　故障アル者ハ來ル八月十日迄ニ當銀行ヘ申出アルヘシ

但シ株券番號承知致度者ハ當銀行株式掛ヘ申出アルヘシ

明治二十七年七月四日　第十五國立銀行

○華族世襲財產解除廣告

一當銀行株式百五株

右ハ今般他ノ財產ヲ以テ更換ノ儀認可セシニ附キ明治二十七年七月七日同家ノ世襲財產解除ノ旨宮內大臣ヨリ達セラル

明治二十七年七月十日　第十五國立銀行

華族從三位伯爵坊城俊章所有ノ分
從五位男爵坊城俊延同

右ハ華族正四位伯爵島津忠亮世襲財產ノ內

○日本郵船會社汽船横濱出發表

今十日	正午十二時	西宗丸	神戸下關長崎上海行	同日	午後四時 伏木丸 能代酒田本庄土崎行
同日	正午十二時	アンゼルス號	函館行	本月十三日	午前十時 豐嶋丸 神戸行
明十一日	正午十二時	欽智丸	四日市行	同日	午後四時 朝顏丸 狹ノ濱函館小樽行

○郵便船出發表

○明十一日午前五時八分本局締切神戸迄汽車送同地ニ於テ屆後丸ニ積込ミ下關長崎對州ヲ經テ釜山仁川芝罘ヘ向ケ郵便物差立

○明後十二日頃加奈太米國及歐洲ヘ向ケ郵便差立ノ筈

○本月二十日頃米國及歐洲ヘ向ケ郵便差立ノ筈

明治二十七年七月十日　東京郵便電信局

明治二十五年三月三十一日遞信省認可（一二）　印刷局印刷

貴重 33308 本文